

総 評

コロナ禍の中、昨年より出品点数が減じて高校生の作品や水墨画が少なく残念に思います。しかし、経験豊かな力作やユニークな秀作等々、特選候補と特に佳作候補が多過ぎて嬉しい悲鳴の中、激戦の入賞審査となりました。制作されている方々の層の厚さを実感しました。高校生や若い方と、若者に負けないベテランの若々しい取り組みなどで、あと十数点ほど賞をつけたいところでした。展示も密にならずゆったり観賞していただけます。今後も、コロナに負けず一人一人の創作活動が活発に展開されますよう、ますます地域の魅力があふれる展覧会となりますよう期待しています。(前川)

甲賀市展賞 『岩坂十三仏』

中村 均

どのような手法かわからない不思議で緻密な筆致で描かれ、色彩も優しく美しい。石仏の質感と手向けられた花の瑞々しさの対比に魅了されました。構図も十三仏の円形を中心とする三角形で、背景の木々や枯れ葉の地面など細やかな心配りが素晴らしい。(前川)

甲賀市議会議長賞 『少年期』

大原 健

作者の少年期のセピア色に変色した写真が、作品を描く根っことなったのであろうか。当時を思い出しながら一筆一筆丁寧に描きこまれている。観ている人たちにそれぞれの幼少期があったであろうことを問いかける作品となりました。(田中)

甲賀市教育委員会教育長賞

『POWER OF COLOR (グミベアー)』

はまうら あつこ

食用のグミベアーを画面いっぱいに散りばめています。日常のなにげないお菓子にも美意識が働き、それを表現しようとする作者自身の色感や技術面に高度なものを感じます。(田中)

びわ湖放送株式会社賞 『荒れる日本海』

森 茂樹

荒れる海を背景に、荒波を避け引き上げられまた静まった後に海に繰り出そうとする方向性をもつ漁船二十余隻と、岩やコンクリートの地面などで明暗の繰り返しのリズム感が快く構図も素晴らしい。それらの配色が美しく、深い印象が残るよい作品です。(前川)

読売新聞社賞 『チェロを奏でる女性』

岡崎 隆子

チェロに魅せられ演奏に取り組む女性の面持ちと手指の表情が素晴らしい。このモデルの奏でる姿勢も真剣で、描くこの作者の描く姿勢も同時に素晴らしく感じました。椅子や床の表現に力みがないので主題が生き生きとしているのかも、でも工夫が欲しい。(前川)

佳作1 『輝く光』

阪下 香月

タイトルとなったこの表現の狙いが明確で爽快さを感じました。それは、先ずは「目」そして「耳」、足の表情……。ただ、白い布の表現に工夫が要ります。(前川)

佳作2 『湖畔の情景』

堤 智恵美

琵琶湖畔の静かなたたずまいを丁寧に表現されています。もう少し左の木を力強く描き込むことによって主題がはっきりとしてきたのでは。(田中)

佳作3 『紙飾りと耳飾り』

外池 宏多

フェルメールの作品をフォトモンタージュ技法で作品としています。暗い部分の色調に透明感があり、顔の表情がしっかりと表現できて楽しい遊び心が伝わってくる作品となりました。

(田中)

佳作4 『陽のあたる遊歩道』

杉本 直樹

陽のあたる歩道と木々、それに対峙する木陰の歩道と逆光の陰の木々がリズムを持って画面に繰り返す中に、空間感と風を感じられました。たいへん快い作品です。(前川)

佳作5 『伝える背中』

西村 京子

水彩特有の柔らかな光がうまく表現できています。右側の面積を少なくして人物を出すことで意図が明確になるのでは。(田中)

(公社)水口青年会議所賞 (奨励賞)

『ホエールフォール イン ザ スカイ』

上野 瑞季

都会の高速道路を車ではなく海洋に生きる鯨や、イルカ、ペンギン、魚群たちが思い思いの速度で自由に走る姿が実に楽しく描かれている。作者の発想が大変ユニークであり、かつ観る人の心を自由奔放に楽しませてくれる作品となりました。(田中)

総 評

昨年より少し出品点数は減少しましたがコロナ禍の中で各々に心の拠り所として創作された作品が今年是这样して展示されることになり大変嬉しく思います。審査は三人の審査員が各々に投票後、受賞作品は話し合いで決めました。惜しい作品も多々あり次回に期待します。(三原)

立体作品全般にあてはまることなのですが、造形的に作り易い形が多いように感じます。作りたい形が優先されるべきなのですが、技術的な問題により作り易い形で妥協することのないようこれからは制作してください。そうすれば作品の巾が更に広がり良い作品が産まれると思います。(加藤)

甲賀市展賞 『朝がくる』 望月 富美子

紫陽花を上手に図案化し表現されている染色作品です。画面の中央の四角い枠の中と外の色や表現を変えた構図です。枠から少し花や葉を出す事で作品の硬さがなくなり、より一層充実した作品となった優作です。(三原)

甲賀市議会議長賞 『繭・小石丸』 清水 照代

柔らかな造形と色により繊細な装飾がより生きています。この柔らかさを失わないように色々な作品を制作してください。(加藤)

甲賀市教育委員会教育長賞 『八面花器』 望月 公司

シャープな面取りと口縁部分の処理に工夫され、丁寧な仕上げに好感が持てる非常によくまとまった作品です。今後はこの良さを失わないよう更に強く広がりのある、おらかな制作をされることを期待します。(加藤)

中日新聞社賞 『文 庫』 森井 福葉

水口細工の文入れです。編み方をいろいろ工夫し制作されていますが、色合いが似かよって模様が変わりづらいです。編み方で出てくる模様と色使いを考慮し制作されると再に見応えのある作品になると思います。(三原)

NHK大津放送局長賞 『ほおずき』 中西 つさ子

ほおずきを強調するところ、抜くところ、色調の濃淡、近遠など、よく考え構成された作品で、紙のちぎり方、より方にも工夫された秀作です。(廣田)

佳 作 『春 霞』

洞 勇同

釉薬を複数にかけた美しい色のグラデーションが印象的です。形も大きく迫力があり好感が持てます。(廣田)

佳 作 『緑 雨』

鶴田 章則

釉薬の緑色が美しく縦線状に流れるよう表現されるのに工夫された良い作品です。形にもう少し変化がほしいと思いました。(廣田)

佳 作 『牡丹と蝶』

岸村 雅弘

竹細工の作品です。竹を単にくりぬくだけでなく立体感の感じられる彫り方で牡丹の花を上手く配置されています。制約のある中での表現は難しいですが、工夫次第でその幅も広がると思います。(三原)

水口ライオンズクラブ賞 (奨励賞)

『土石龍』

山村 昇理

思い切った造形と装飾に力強さ、若さを感じます。技法的にもまだまだ発展、拡張できると思いますので更なる強い作品制作を期待します。(加藤)

総 評

今年はコロナ感染拡大の影響を受け、色々な行事が中止又は延期される中、本展が開催され、それに向けて皆さんの熱意ある多くの作品に接し嬉しく思います。今後とも本展発展の為に日々のご精進を祈ります。(森嶋)

甲賀市展賞 『高適詩』 福島 白桜

切れ味鋭い筆致で力強く堂々と書かれ素晴らしい作品に仕上がっている。中心の「莫愁」にポイントを置き、全体をまとめている。余白が素晴らしい。(森嶋)

甲賀市議会議長賞 『許渾詩』 田中 天祐

全体の構成を方形に処理した点に注目したい。打楽器的な筆致でリズム好く書きこなしている。後半やや重いか？益々のご精進を祈る。(森嶋)

甲賀市教育委員会教育長賞 『平穩無事』 松永 大樹

墨線のするどい切れ味がすばらしいです。紙面に向かう気合い、呼吸など感服しました。
(柳谷)

産経新聞社賞 『小倉百人一首より』 木邑 匡良

和歌二首を横型式に纏められた秀作。中心に作品の山場を作り、自然な散らしで後半は静かにまとめている。息の長い呼吸に好感。(森嶋)

朝日新聞社賞 『劉崧詩』 倉崎 鳴泉

行・草書体を中心に縦三行にリズム感好く書かれて秀作、文字の大小潤渴の変化も良い。
(森嶋)

佳 作 『漢詩句』 島田 千佳

筆を吊りあげて細線を多用し、明るい作品となった。(柳谷)

佳 作 『墨 戯』 白田 雅子

墨戯の如く、たっぷりとした筆遣いで紙面の充実感がある。(柳谷)

佳 作 『無』

池ノ内 育子

大胆不敵な構成で、観るものを圧倒します。長い横画が効果あり。(柳谷)

佳 作 『王烈の詩』

栗栖 美徑

単体でありながら自然な書き振りでリズム感がある。余白が美しい。(森嶋)

佳 作 『杜甫詩』

村田 知晏

一字一字をリズム好く書く手腕は素晴らしい。やや字幅が揃ったのが惜しい。(森嶋)

佳 作 『杜甫詩』

西野尾 侑心

力強い筆致でリズム感好く書かれている。二行目の渴筆が美しい。(森嶋)

佳 作 『杜甫詩』

墨田 睦水

五言律詩を横型式に上手く纏められ秀作、今少し文字の大小の変化が欲しい。(森嶋)

総 評

コロナ禍で、催事の中止や自粛が多い中、作品作りも心配していましたが、出点数も昨年同様で、その中でも高校生の作品も多く甲賀市展の感心度の高さに喜ばしく審査させて頂きました。応募作品はバラエティーに富んだ多彩なジャンルの作品は見応えがありレベルの高さを感じました。その反面、わずかですが過度な直しをしている作品もありました。今回は皆さんの前で講評をすることができず残念ですが来季はコロナ禍が終息し、元気で皆さんに会えることを楽しみにしています。

甲賀市展賞 『幻 想』 山本 靖幸

天空の城ブームで近年、撮影地の福井県・大野城の作品ですが、主役の城を取り巻く雲海が、市街地の電色に染まり画面を引き立てフレーミングも申し分のない作品です。

甲賀市議会議長賞 『厳寒の造形』 初田 嘉次

琵琶湖の飛沫凍りは、数年ぶり。造形と色彩は組み写真で見応えがある作品に仕上げ季節の話題ものになりました。

甲賀市教育委員会教育長賞 『にげろにげろ』 野口 泰子

琵琶湖の風物詩、アユ漁ですが、若鮎がピチピチ跳ねる姿は見る人に元気を与えるような作品、清々しいですね。

毎日新聞社賞 『若者達』 小谷 博司

アート作品をバックに記念撮影でしょうか、画面構成と人の配置で立派な出品作品となりました。

京都新聞賞 『獲物争奪バトル』 伴 光藏

知床のオジロワシ、ピント、画面構成、申し分のない作品。画面左のワシの足を上げてタイミング、臨場感があります。

佳 作 『古刹の新春』 西出 稔

ほのぼのとした家族の雰囲気は見る人を和ませます。

佳 作 『信 頼』

野崎 文華

お爺ちゃんとお孫さん、安らかな寝顔のお孫さんに、愛情いっぱいのお爺さん、嫌味のない
つくりです。

佳 作 『幸せのひとつき』

中森 ますみ

画面構成、フレーミング、子供の大きさが、あえて作品を強調しました。

佳 作 『雨中熱戦』

平田 永文

闘志が伝わるスポーツ写真です。シャッターチャンス、フレーミングともに申し分のない作
品です。

佳 作 『桜の花の咲くころ』

成岡 幸和

長年写真を撮っている方でしょう。高度な撮影テクニックに脱帽です。審査の疲れも癒され
ました。

水口ロータリークラブ賞（奨励賞） 『Beautiful』

杉本 七海

夜景撮影。シャッターブレが致命傷ですが、ピントもブレもなく、鮮やかな電色が川面を染
め美しい夜景写真です。